

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
中央地区	第一小学校	①1学級の規模は通常授業をするにはちょうど良い。 ①建て替えから2059年までに人数が大きく変わらないので施設を無駄なく使える期間が長い。 ②小・中学共に生徒数・学級数のバランスがとれている ④将来推計において、規模の適正化は確保されている。 ④中央地区再編案Bと比較して、特別支援クラスの設置を考慮すると大人数になりすぎない。 ④西部・北部の再編案にもよるが、将来的に1小の位置に小学校を残すことで、さらなる人口減少においても西部地区の児童受け入れが可能となる冗長性を確保できる（3地区再編案Aとの関係） ⑤小学校3校を維持できる ⑥小学校2校とも各学年2クラスが保たれ良いと思う。 ⑥人数が増えることによって部活動も活発になると思う。	①推計では、第一小は、2056年以降は文科省推奨の1学級当たり児童数を満たさない。 ①特に中学校は、運動会など大きな行事の際に、全体として小規模で物足りなさがある。 ④将来推計以上に人口減少が進んだ場合、規模の適正化で不安要素が残る。 ⑤青梅大祭、市民運動会をともに行ってきた日向和田を西部に変更することへの反発も予想される。	③日向和田が西部へとあったが、電車で行くなら東へ行くのでもあまり変わらないのではと思った。 ③裏宿はバスならとあったが、バスはいつまであるのか気になる。 ⑥今まで第四小学区の子供達の通学時間がどのように変わるのか心配である。	②中学生は自動車又は公共交通を利用すれば問題なく通える、小学生は徒歩に問題ない。 日向和田地区が5小・西に通うのは近くなるし、良いことだと思う。 ④青梅駅は公共交通機関のハブとなっているため、中央地域だけでなく西部④北部から公共交通機関を利用した通学先として汎用性が高く将来の公共交通維持の可能性も高い。 ④身体が小さな小学生という特性を考慮すると、駅からの距離が近く、且つ青梅駅から小学校まですべて通学路指定として一般車両の通行がないため安全性が高い。 ④青梅駅周辺には青梅図書館やたまぐーなど、子どもが下校後も安全に過ごせる居場所が確保されている。 ④青梅駅から1小敷地の通過を予定していた都市計画道路の整備計画は必要性が低いとして8年ほど前に廃止されており、道路整備において都市計画上の課題は消滅している。 ④中央地区の再編案としては一番現実的 ⑤適正だと思う ⑥第一小学校と吹上小学校の真ん中に位置する中央地区の中学校の場所は良いと思う。 ⑥人数が増えることによって部活動も活発になると思う。	①特に小学校は、根ケ布2丁目から吹上小に通う児童がいる場合かなり不便と思われる。	④中央地区再編案Bと比較すると小学校が2校となるため、コスト的には劣る。	①施設一体型よりも節目で区切りをつけやすい。新鮮な気持ちで中学校生活に臨める。 ①基本的に同じ小学校から全員同じ中学校に進学できるため安心感があり、同時に別の小学校からも合流するため新鮮味もある。 ③小中学生の一貫教育ですが、こちらの考えも良いと思います。 ④小学校と中学校を一体としないことで、中学生にとって部活動の場所の確保が可能（小学生にとって安全な居場所がなくなる） ⑤一小は芝生のため、休み時間に遊びやすかったり、サッカーしやすかったりするが、可能な競技が限られるため（体育館も2つあり、中学校は部活に使用していても、小学校は地域で利用することができる）、地域に2種類のグラウンドができる。 ⑤学ぶ環境が変わることで、その後の環境変化に備えられる。		④義務教育学校ではなく施設一体型の小中一貫教育のメリットは大きくないと考えます。教育効果として一貫教育を目指すのであれば、一部の理系国立大学で大学院まで6年間一貫教育が進んでいるように、1人の校長の元で先生も前期課程高学年から後期課程まで一貫通貫の教育が可能となる義務教育学校を目指すべきです。 よって、単なる小中一貫教育なのであれば「施設一体型」のメリットは小さく、「施設分離型」はデメリットにならないと考えます。
	第四小学校	②クラスが多い方がいと思う ④生徒数、学級数はバランスは良い。	③第四小学区の1部を第一小学校学区に2036年までに再編しても、2059年には児童数は214人であり、不安定な状況を残すことになる。		④配置、通学さほど問題は無い。	②学校の位置については広いのでスクールバスを考えるべきだと思う ③根ケ布2丁目地区の児童は通学負担が吹上小学校に通うために約1.8倍となる。 ④中学は自転車通学になるのか？ だとすると通学路の確保をどの様に考えるのか？			②一体型の方が児童数が多く集団生活が学べる ③目指す児童・生徒像を共有した小中一貫教育の推進のために、施設一体型小中一貫校を基本とした学校施設の再編である。中央地区再編案Aではこの基本方針の推進ができるのに施設分離型である。	④青梅市がこれからの教育をどの様に考えているのかで、分離型か一体型かは変わってくると思う。 ④子供達の事を考えると一体型の方がメリットが有りそうです。
	吹上小学校	①小・中学校は、1学年の学級数、学校全体の学級数のどちらについても学校活動を実施する上で適正であると考ええる。 ③1小学校区、吹上小学校区、中央地区中学校、いずれも望ましい学校規模を維持できる点		②旧青梅村と旧日向和田村の境界線で分けるようであるが、第一支会が分断されてしまい、行政上問題はないのか？市民センター構想とも合わせて考える必要もあるのでは？	①児童、生徒の通学負担については、A案の再編によって設置される学校の位置からは負担の増加はほとんどないと考える。 ③勝沼町、根ケ布、東青梅地区から中央地区中学校への通学時間が短くなる点。	②小中一貫校は教育上のメリットは良い面・悪い面両方あると思うが、クラブ活動もあり、4小の敷地で、多種のクラブ活動を行うには厳しい面もあるのではないかと。近くに活動ができるグラウンドや公園等がないようだが。 ③裏宿町、塩船地区から通学距離が長くなる点			③施設分離型小中一貫校となるため、行事や交流が制限されることとまり、めざす児童・生徒像を共有しにくい点	①小中一貫校に関しては、義務教育を通じて一貫した教育活動を実践することができる大きなメリットである。小学校の6年間と中学校の3年間で分け隔てることなく継続した中での学習指導計画の立案や児童、生徒の人間関係をより豊かに醸成することが期待できる。また、中一ギャップを防ぐうえでも効果的である。小中一貫校による教育の効果をより発揮することができるのは、中央地区再編案A、2地区複合案の「施設分離型」よりも中央地区再編案B、3地区複合案Bの「施設一体型」であると考え。 ④現在、吹上小の生徒は、ほぼ吹上中に進級しています。小・

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
										中の交流もあるので、その意味では、小中一貫もよろしいと思いますが、四小・一小の生徒たちのことを考慮すると、分離型をとられたり、まだ、課題はあると思います。
	第一中学校	①計画自体はシンプル ④適正であると思われる。 ⑤旧小学区の子が同じ中学校に通える	④将来的には小学校はまた適正規模を満たさなくなってくるかもしれない。 ⑤小学校の生徒数を見ると見直しが必要になりそう。		①一中学校舎の有効活用が出来れば、新たな機会創出が期待できる ④小学生への負担が少なく、中学生ならば可能な通学距離である。 ⑤学校の配置は良いと思う	①第一支会の分断 ⑤通学時間が延びる ⑤根ヶ布の子たちの時間が延びる		④施設分離型で、個人的には一番安心な案だと思う。 ④小学生（特に低学年）は安心して校庭で遊ぶことができる。	④中一ギャップの解消にはならない。 ⑤小学校が2つあるので、学力のバラつきがあるのではないか	
	吹上中学校	①とてもいい案だと思う ②小中学校とも、再編成で適正規模になったので、これでよいと思います。 ③吹上中としては、2059年までの大規模な少子化の中で、中央地区中学校が274人の生徒では学校として安定する ⑤吹上小学校③と同様の意見			②A案B案とも配置や通学負担についてよいと思います。 ③吹上中としては現在根ヶ布地区の生徒が自転車通学をしているが、解消されるとありがたい。 ④中学生は自転車通学も可であれば実現的な案だと思う ⑤吹上小学校③と同様の意見	②日向和田の児童・生徒、保護者及び地域の方々が長らく一小・一中に通学していたので、西中・五小に編入されることに抵抗があるかと思っています。 ⑤裏宿町、塩船地区からの通学距離が長くなる点			③学校施設再編の考え方は、小中一貫教育の推進であるが、この案では施設一体型の小中一貫校ではない。施設分離型を目指す教育の方向性が確保しづらい。	①施設の面を考えると一体型の方がいいと思う ②小・中一貫教育の趣旨から、施設一体型が望ましいと考えます。 小中一貫校開校前に、一貫校についての説明を指導し、小中教員同士が、十分に話し合うことが大切であり、必要と考えます。現在も小中連携を行っています が、「その延長上に一貫校がある」との理解ではないことを、教職員に認識させることが必要と考えます。